

福祉・ひとグループ

福祉・ひとグループの質問を始めます。

私たちのグループは、動物福祉の観点や差別などをなくす取組について話し合いました。

このことについて2つの質問をしたいと思います。

質問1 「動物を大切にする広島県の実現」について

1つ目の質問は、「動物を大切にする広島県の実現」についてです。

以前、飼っていた犬が家を脱走し、警察署に保護されたという話を聞きました。警察署では、犬は落とし物と同じ場所に入れられていたようで、私も犬を飼っているの、家族同然に可愛がっている犬が物扱いをされていたことに、とてもショックを受けました。その時に、人間と同じようにペットを扱ってほしいと思い、ペットの命の大切さを理解することが重要だと感じました。

令和4年度に、広島動物愛護センターで犬や猫を保護したり引き取った件数は1,273件、殺処分頭数は85件でした。どちらも以前に比べると減少しているようですが、殺処分される犬や猫がいることはとても悲しく思います。

殺処分をゼロにする取組として、保護された犬や猫をペットとして飼う方法があると思います。ペットにかかる年間経費は、犬の場合は約36万円、猫の場合で約16万円と言われていて、ペットを飼おうとする人は、このようなことを事前に理解しておく必要があると思います。

そこで、1つ目の提案です。犬や猫の譲渡会を県内の様々な地域で開催して、県のSNSやホームページで情報発信したり、ペットを飼うときの注意点やかかる費用などをまとめた動画を作成して、譲渡会で見てもらうようにしてはどうでしょうか。

そうすれば、ひとつの命を救うことにもつながるし、ペットを飼いたいと思っている人も事前に心構えができると思います。

また、ペットは可愛いだけではなく、しつけに悩んだり、ペットが高齢になった時にきちんと世話ができるかと不安に思う飼い主がいるかもしれません。こういった悩みや不安がペットを手放すきっかけになって、保護施設等にペットが持ち込まれるケースもあると思います。

そこで、2つ目の提案です。責任を持ってペットを飼ってもらえるように、例えば、しつけを行ったり飼育方法を学ぶことができるペットの保育園のような施設を作ってはどうか。

また、私たちには、野良犬、野良猫を減らすための呼びかけのポスターを作ることができると思います。このような取組により、ペットを手放す飼い主や保護されるペットが減って、殺処分がゼロになればいいと思います。

答弁（知事）

まず、1つ目の御提案である県内各地での譲渡会の開催とその情報発信について、お答えします。

県では、犬や猫を保護して譲渡したり、動物を大切にすることや、動物を正しく飼うことについて、多くの人に理解していただくために、動物愛護センターを設置しています。

この動物愛護センターは、今年8月1日に広島空港の近くに引っ越して、新しくなりました。

センターでは、毎週土曜日・日曜日に保護犬・保護猫の譲渡会を行っているほか、県内各地に出張し、譲渡会を開催する予定です。

また、保護犬・保護猫を新しい飼い主にお渡しする前に、正しい飼い方や病気などの注意点、かかる費用などを学んでいただく講習会を必ず受けていただくようにしています。

今後は、皆さんの御提案を踏まえ、譲渡会の開催についてSNSなどで情報発信するとともに、動物を飼うことに興味を持つ人が、前もって飼い主の心構えなどを知ることができるよう動画作成についても検討を進めていきます。

次に、2つ目の御提案であるペットの飼育方法などを学ぶことができる施設について、お答えします。

動物愛護センターでは、「パピーパーティ」という、子犬との暮らし方やしつけ方を学ぶ「子犬と飼い主のための保育園」のような教室のほか、犬や猫のそれぞれの特徴に応じた、よりよい環境の作り方について学ぶ、「譲渡犬との幸せな暮らし方セミナー」や「猫の教室」など、動物について様々なことを学んでいただける教室を用意しています。

また、しつけなどペットに関して悩みを持つ飼い主向けに飼育相談会も開催し、安

心して飼い続けることができるよう支援しています。

皆さんの御提案を踏まえ、このような教室を行っていることを広く知っていただくよう情報発信し、より多くの人に動物に対する理解を深めていただけるよう、取り組み、「動物を大切に作る広島県の実現」を目指していきます。

皆さんも、土曜日・日曜日には家族や友人と、動物愛護センターを是非、訪れてみてください。

質問2 「一人一人の個性を尊重する取組」について

2つ目の質問は、「一人一人の個性を尊重する取組」についてです。

まずは「学校でのいじめなどの相談体制の整備」についてです。

私はハーフですが、学校でアメリカ人と言われて、馬鹿にされて嫌な思いをしたことがあります。何気なく言った言葉でも、相手が不快に思えばいじめになります。

令和3年度の広島県の小・中学校でのいじめの件数は、ピークだった平成30年度の7,002件と比較すると減少していますが、それでも5,542件とまだ多い状況です。

学校には悩みや不安を持つ児童生徒が気軽に相談できるよう、スクールカウンセラーも配置されていますが、相談に行きづらい、入りづらい場所という印象があります。

そこで提案です。児童生徒がいじめなどで悩んでいるときに、相談しやすい工夫をしてはどうでしょうか。具体的には、相談カードを作成し、自分の名前と話を聞いてほしい学校の先生の名前を書いて専用のボックスに入れると、希望の先生と面談ができるというのはどうでしょうか。

そうすれば、自分の思いを伝えやすいし、学校もいじめなどの問題の把握につながると思います。

次に、「LGBTQ+に関する理解の促進」についてです。

最近では、性的マイノリティーを表現するLGBTQ+という言葉が社会的に浸透していますが、意味を理解している人は少ないのではないのでしょうか。

LGBTQ+の人は、周り自分と違ったり、自分の身体と心の性が違うことで戸惑ったり、また、少数派であるため差別を受けることもあると思います。

ある認定NPO法人の調査によると、教職員の97.9パーセントが、小学校までにLGBTQ+について考え始めるとよい、と回答していて、子供のうちから多様な性を身近に感じ、違いがあることが当たり前だと思える取組が必要ではないでしょう

か。

また、LGBTQ+の方だけでなく、「男らしさ」や「女子はこうすべき」というような、性別による決めつけに、嫌な気持ちになる人もいます。

そこで提案です。学校でLGBTQ+などについて学べる機会を増やしてはどうでしょうか。例えば、小学3年生以上を対象に、少なくとも半年に1回は多様性についての授業をしたり、図書室にLGBTQ+に関するコーナーを作り、本を置いて、誰もが気軽に読めるようにしてはどうでしょうか。

性別にとらわれず、様々な考え方や生き方があることを理解していくことで、一人一人の個性が尊重される広島県が実現すればいいと思います。

答弁（教育長）

2つ御提案がありました。

まず、「相談しやすい工夫」について、答えます。

いじめなどの悩みを早期発見・早期解決するために、学校の先生が児童生徒の皆さんと定期的な個人面談や、アンケート調査などを行うことは、とても大切ですね。

広島県では、児童生徒の皆さんや保護者の皆さんが、学校生活の中で様々なことを気軽に相談できる環境づくりを進めています。

例えば、学校内外のいじめなどの相談窓口を紹介することや、相談しやすい環境づくりのために、全校児童生徒を対象に担任や学年主任などの先生による面談を行っている学校もあります。

提案のような「いじめなどの悩みを相談カードに記入し、専用のボックスに入れる工夫や、聞いてほしい先生を選択できるようにすること」は、児童生徒の皆さんにとって、より相談しやすい環境づくりにつながります。

私たち、教育委員会は、今後も、皆さん一人一人の思いに寄り添いながら、いじめなどの悩みを相談しやすい環境づくりができるよう、学校を支援していきます。

次に、「学校でLGBTQ+などについて学ぶ機会を増やす」ことについて、お答えします。

小学校や中学校では、道徳科や学級活動などの授業を通じて、様々な価値観や生き方があることを知り、それらを尊重できるよう、学んでいると思います。

そのほか、LGBTQ+の当事者の方による講演会を実施し、人には様々な違いがある、一人一人違っていいんだということについて知ることを通して、改めて

「自分らしく生きること」について考える取組をしている学校もあります。

また、御提案にありました学校図書館にLGBTQ+に関連するコーナーを設置するという取組は、学校図書館を訪れた人たちがLGBTQ+について考えることができる有意義な取組だと思えます。

現在、多くの学校で、学校図書館のリニューアルが行われており、LGBTQ+についての図書を配置する学校も増えてきているところです。

私たち教育委員会は、県内すべての市町に対して、LGBTQ+に関する講演会や授業の実施状況を聞いたり、ヒューマンフェスタなどの取組について情報を共有したりするなどの連携をし、小中学校での実践が広がるよう取り組んでいるところです。

今後も、多くの学校で、一人でも多くの児童生徒が、価値観や生き方の多様性について理解を深めていけるよう、支援していきますので、皆さんもこのことについて、関心を持ち続けてください。